

上部尿路上皮癌の予後を規定する分子マーカーの探索

＜研究の実施についてのお知らせ＞

大阪府立急性期・総合医療センターでは、病気の診断や治療の向上を目指して、実際に治療を受けられた方の臨床情報を元に種々の研究を行っています。

以下にその概要を記しますので、ご理解の程お願いいたします。

研究課題名

「上部尿路上皮癌の予後を規定する分子マーカーの探索」

研究の意義・目的

上部尿路上皮癌（腎盂尿管癌）は比較的稀な疾患で、進行性の腎盂尿管癌に対しては、予後に対する有効性はまだ証明されていないが、術前、術後の補助化学療法も行われている。しかしながら、腎盂尿管癌の予後を予測する因子の報告は少なく、どの患者に対して抗癌剤治療をすべきか明らかではない。そのため、術前、術後に腎盂尿管癌患者の予後を予測するマーカーが明らかになれば、抗癌剤治療をどのような患者に対して施行すべきか明らかになり、不要な抗癌剤治療を減らすことができます。病理組織結果、入院時採血結果、抗がん剤治療の有無、再発の有無、予後に関するデータを収集し、免疫組織染色結果を合わせて予後との関連を検討することを目的とする

研究の方法

1999年1月1日から2012年6月30日までの腎尿管全摘術を施行した腎盂尿管癌の患者さんと1999年1月1日から2012年6月30日までの間、尿細胞診で尿路上皮癌と診断され、抗癌剤治療を受けられた患者さんを対象とします。

腎盂尿管全摘を施行され得られた摘除標本を用いて、血球系マーカー、血管新生系のマーカーやそれらに関連した細胞内のシグナル伝達系のマーカーについて免疫組織化学染色をおこないます。また病理組織結果、術前の入院時採血結果、抗がん剤治療の有無、再発の有無、予後などの情報を過去のカルテを元に、データを収集し、再発の有無、抗癌剤による効果（再発の有無）などの予後に関して統計学的に解析します。

研究機関名

大阪府立急性期・総合医療センター、大阪大学

個人情報の保護について

個人情報（個人が特定できるような氏名・生年月日などの情報）は文部科学省・厚生労働省の指針に従い厳重に管理いたします。本研究のために調査する資料は 症例番号を用いて作成します。調査主施設（大阪大学）には、個人が特定できない形での試料およびデータ提出となります。本研究で扱われている個人情報について開示を希望することもできます。

研究責任医師

大阪府立急性期・総合医療センター 泌尿器科 主任部長 山口 誓司

その他

本研究の対象となった場合にも薬剤や検査の負担は通常の診療と同様です。
また謝礼のお支払いもありません。